

中学校3年 技術・家庭（技術分野） 学習指導案

「安全性の面から、情報社会の特性を理解する」

日 時：平成 年 月 日（ ）

場 所：

授業者： 教諭 藤田 健太郎

## 1 題材名

D情報に関する技術（1）ウ ネット上のコミュニケーションを考える

## 2 題材について

### （1）題材観

情報社会の進展により、家庭でのパーソナルコンピュータや携帯端末などの普及が急速に進んでいる。特に携帯電話は電話機能以外にインターネット接続やデジタルカメラ、ワンセグ放送によるテレビ視聴等、多機能のものが主流となっており「ケータイ」と呼ばれる。諸外国に比べ日本では「ケータイ」におけるネット利用が進んでおり、電子メールや情報収集、ネットショッピング、音楽やゲームのダウンロード等、利用方法は多岐にわたる。また、携帯電話の普及も年々増加傾向にあり、所有者も若年化の傾向にある。文部科学省の調査（2008年12月）によると小学6年生で24.7%、中学2年生で45.9%、高校2年生で95.9%という結果も出ている。携帯電話の普及に伴い、児童生徒がトラブルに巻き込まれる事件が多発している。また、ネット上のいじめ等も社会問題となっており、児童生徒への携帯電話の利用に関する情報モラル教育の充実が求められている現状にある

「D情報に関する技術（1）ウ」では情報通信ネットワークの学習に関連させて、ネットワーク上のルールやマナーの遵守、危険の回避、人権侵害の防止等、情報に関する技術を場面に応じて適正に活用する能力を育成することをねらいとしている。ブログ、プロフ、SNS等の携帯端末による情報通信ネットワークを介したコミュニケーション手段の進展や児童生徒のケータイ所持率の増加傾向を考えた場合、ネット上のコミュニケーションについて考えさせることは、情報を適正に活用する能力と態度を育てることにつながると考えこの題材を設定した。

### （2）生徒観

文部科学省の調査では携帯電話の所有率は大都市と郡部では2倍程の差がある。（中学2年生携帯電話所有率＝大都市50.5%、郡部26.7%）本校は阿蘇地方南部に位置する小規模校である。授業を行う中学3年生は1学年1学級〇〇人の学年である。（男子〇〇人、女子〇〇人）自然に囲まれた環境にあり純朴で素直な生徒が多い。6月に本校で行った調査では携帯電話の所有者は〇〇人であり全体の3分の1程度であった。今後受験に向けて学習塾等に通う生徒が増えるに伴い所有率も上がることが予想される。保護者が生徒に所有させる理由は「塾や習い事等、家庭との連絡」がほとんどである。生徒の利用も連絡用の電話と家庭及び友人間のメールが主であるが、ネットに接続しブログやプロフを閲覧している生徒も少数いる。

### (3) 資料について

プロフを利用している高校生へのインタビュー記事を資料とした。1年後、高校生になる生徒たちに身近な問題として考えさせることを目的として資料を選択した。さらに新聞記事を活用することで実際の社会の中でおこっている問題であることを伝えたいと考えた。

### (4) 指導観

指導にあたっては以下の2点に力点をおく。

#### ①情報公開の危険性を理解させる

題材としたプロフ等、ネット上に情報を公開することは簡単にできることである。簡単であるがゆえに、情報公開の危険性を深く考えることなく安易に個人情報を公開してしまうことが考えられる。現在、そして近い将来に携帯電話を所有する可能性が高い生徒たちにまずはネット上への情報公開の危険性について理解をさせ、自分自身で危険を回避する力を身につけさせたい。

#### ②ネット上のコミュニケーションについて考えさせる

プロフを公開することやネット上で知り合った人へ書き込みや、メール等でコミュニケーションを行うことで本当の信頼関係を築くことができるのか。自分たちが欲している友人、人とのつながりはネット上でつくることができるのかについて考えさせたい。

情報社会における生徒たちを取り巻く危険な現状を理解させるためにもICTを活用する。資料では数値化したデータを視覚的に示し、動画等も活用することで、関心を高めて自分自身の問題としてとらえさせたい。また、小グループでお互いの意見を出し合わせることで考えを深めたい。

### (5) 情報モラル教育の視点から

ア 本時は、「モデルカリキュラム」の目標「3. 安全への知恵」、項目「d4-1:安全性の面から、情報社会の特性を理解する」との関連を重視して展開する。

イ 本時は情報モラルの内容を「題材化」して授業を展開する。ネット上のコミュニケーション手段である「プロフ」を題材として、情報社会における的確な判断力（危険回避力）を身につける。

### (6) 人権教育の視点

ア 自分の考えを、自信を持って発表できるような支持的風土づくりに努める。

イ 他の人の意見も尊重しながら、ともに学習しようとする態度を育てる。

## 3 題材の観点別目標

生活や技術への関心・意欲・態度	情報社会において適正に活動しようとしている。
生活を工夫し創造する能力	情報に関する技術の利用場面に応じて、適正に活動している。
生活の技能	※新学習指導要領では項目がありません。
生活や技術についての知識・理解	著作権や、情報の発信に伴って発生する可能性のある問題と、発信者としての責任についての知識を身に付けている。

#### 4 指導・評価の計画

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価項目（方法）
1	1	生活と情報のかかわりについて考える	情報社会の現状を理解させ、情報社会の中で生きる責任について考えさせる。	情報社会のマナーについて理解し、発信者としての知識を身に付けている。【知・理】
2	1 本 時 1 / 1	ネット上のコミュニケーションについて考える	情報発信の手段とコミュニケーションについて考えさせ、その危険性と人間関係の希薄性について気づかせる。	情報において適正に活動しようとしている。【関・意・態】

#### 5 本時の学習（1/1時間）

##### (1) 目標

プロフによるネット上への情報公開について知らせ、その危険性とネット上のコミュニケーションについて考えさせる。

##### (2) 展開

過程	学習活動と主な発問	生徒の反応	指導上の留意点と評価	備考
導入 10分	①ネット上のコミュニケーション手段について知る。 「ブログ・プロフ・SNSを知っていますか？」	・知っている。 (ブログ・プロフ) ・知らない。 (SNS) ・見たことがある。	・プロフ、ブログ、SNS等ネット上のコミュニケーションについて説明する。あまり専門的になりすぎないようにする。	
	学習課題 ネット上の情報公開とコミュニケーションについて考えよう  ・一問一答のアンケートに答えるだけで簡単にプロフが作れることを知る。	・こんなに簡単にできるんだ。	・プロフをプレゼンで説明する。(資料：まんがインターネット安全教室、経済産業省)	プレゼン
展開 35分	②情報公開について考える。 「簡単にできるプロフの内容です。皆さんはこの情報をネット上に公開できますか？」	○自分を紹介したい。 ○友達をつくりたい。 ○友達にならいい。 ○友達だちになりたいから知られてもかまわない。	・個人が特定できるような内容の質問項目が入ったプリントを見せて。 ・できる、できない、どちらとも言えないの三択で全員に手を挙げ	プリント

	<p>・警察庁の資料よりネット犯罪に巻き込まれる児童生徒の現状を知る。</p> <p>・高校生のプロフ公開の現状を知る。</p> <p>「実際にプロフをしている女子高生にインタビューした資料があります。」 「この意見についてどう思いますか？」</p> <p>③ネット上のコミュニケーションについて考える。 「ネット上のコミュニケーションで大切なことはどんなことかを考えてください。」</p> <p>・話し合った意見を発表する。</p>	<p>×誰が見ているかわからないからこわい。 ×犯罪に巻き込まれる。 △項目によっては公開してもよい。</p> <p>・そんなに公開している人があるのか。</p> <p>・プロフで友だちになるのはわかる。 ・友だちの友だちは友だちとは限らない。</p> <p>・グループの中で自分の考えを発表する。</p>	<p>させて、何人かに理由を聞く。</p> <p>・まんがの資料の続きを見せる。(プロフで知り合った人に会い、犯罪に巻き込まれる。)</p> <p>・犯罪に巻き込まれる児童生徒が増加している。</p> <p>・高校2年の携帯所有者の40パーセントがプロフを公開している。</p> <p>※インタビュー資料 Q「なぜ、プロフをするのですか？」 A「友だちづくり。くだらないことで友だちになる。」 Q「危険だとは思いませんか？」 A「友だちの友だちは友だち(だから大丈夫)。」 ・グループに分かれてネット上におけるコミュニケーションについて話し合わせる。</p>	<p>警 視 庁 資 料</p> <p>新 聞 資 料</p> <p>フ レ ン</p> <p>付 箋</p>
<p>終末 5分</p>	<p>③教師のまとめを聞く ・感想を書く。</p>	<p>※教師のまとめ 信用と信頼がキーワード。友だちの友だちが友だちとは限らないこと(危険性)。ネット上の出会いで本当の信頼関</p>	<p>・生徒同士で手をつながせて、お互いに温もりを感じさせる。ネット上のコミュニケーションでは、顔も見えず、温もりを感じることも</p>	<p>フ レ ン プ リ ン</p>

※評価  
自己の問題として考え、話し合いで積極的に意見を出しているか。【関・意】

		係をつくることは難しいこと。(簡単に友達ができたとしても、それをつなぐことは難しいこと)深い信頼関係を欲していながら、それを実現することが難しく、薄い付き合いを代償として求めていること。	できないことを伝える。人と人との本当の繋がりについて考えさせる。	
--	--	---	----------------------------------	--

## 6 モデルカリキュラムの位置づけ

(モデルカリキュラムを参考に作成)

情報モラル	道徳、各教科、特別活動 他
a4: 情報社会への参画において、責任ある態度で臨み、義務を果たす。	技術・家庭科「情報伝達の安全性とマナーを考えよう」安全に興味を持ち適切な情報処理を考える。「情報社会と私たちの責任」情報社会の一員として責任ある行動の必要性を理解する。
b4: 情報に関する自分や他者の権利を理解し、尊重する。	技術・家庭科「情報伝達の安全性とマナーを考えよう」安全に興味を持ち適切な情報処理を考える。 社会「ひろがる人権」社会の変化とともに、ひろがる人権について考える。
c4: 社会は互いにルール・法律を守ることによって成り立っていることを知る。	技術・家庭科「情報伝達の安全性とマナーを考えよう」コンピュータ犯罪の深刻さを理解する。 「消費者としての自覚をもとう」悪質な商法の種類やトラブルについて理解し、契約の意味を知る。
d4: 安全性の面から、情報社会の特性を理解する。	技術・家庭科「情報伝達の安全性とマナーを考えよう」安全に興味を持ち適切な情報処理を考える。「情報社会と私たちの責任」情報社会の一員として責任ある行動の必要性を理解する。 <b>技術・家庭科 D情報に関する技術 「ネット上のコミュニケーションを考える」</b>
e4: 情報を正しく安全に活用するための知識や技術を身につける。	技術・家庭科「インターネットで情報を収集しよう」インターネットによる情報収集の方法について理解する。 「情報伝達の方法を調べてみよう」情報伝達の特徴や利点について調べ比較する。
f4: 自他の安全や健康を害するような行動を抑制できる。	保体「心身の調和と心の健康」 技術・家庭「情報社会と私たちの責任」情報社会の一員として責任ある行動の必要性を理解する。
g4: 情報セキュリティに関する基礎的・基本的な知識を身につける。	技術・家庭科「情報伝達の安全性とマナーを考えよう」コンピュータ犯罪の深刻さを理解する。「情報社会と私たちの責任」情報社会の一員として責任ある行動の必要

	性を理解する。 道徳「ネットワーク社会の落とし穴」
h4: 情報セキュリティ確保のために対策・対応がとれる。	技術・家庭科「情報伝達の安全性とマナーを考えよう」 セキュリティソフトやフィルタリングについて知る。 「情報社会と私たちの責任」情報社会の一員として責任ある行動の必要性を理解する
i4: ネットワークの公共性を意識して行動する。	技術・家庭科「インターネットで情報を収集しよう」 インターネットによる情報収集の方法について理解する。 「情報伝達の方法を調べてみよう」情報伝達の特徴や利点について調べ比較する。